

美原区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称		実施主体			
美原区ブックスタート事業		美原図書館・美原区役所企画総務課・美原保健センター			
事業目的	事業効果	活動指標	H30	R1	R2
赤ちゃんに絵本を贈呈し、保護者と赤ちゃんに絵本の読み聞かせを行う。同時に保護者に絵本とその読み聞かせの効用と大切さを普及、啓発する。読み聞かせを通じ保護者と赤ちゃん心を通わせることにより、親子の絆を深め、言葉の大切さを伝えることを目的とする。	保護者と赤ちゃんに絵本の読み聞かせを行うことで、保護者に絵本とその読み聞かせの効用と大切さを普及啓発する。また、絵本を贈ることで、保護者と赤ちゃんの触れ合いが生まれ、絆が深まる。絵本に興味を持ち、図書館を訪れることで、乳幼児を持つ保護者同士のふれあいのきっかけとなる。	4か月児健診時の絵本配布率	99.6%	98.1%	99.1%
		絵本の貸出冊数	50,929	45,931	37,495
①妥当性		②協働の視点		③インパクト	
○	4か月児健診を機会とすることで絵本の読み聞かせの効用や大切さを区民に等しく啓発することが可能となる上に、図書館の利用促進につながる事業であるため、行政が実施すべきである。	○	今年度については新型コロナウイルス感染症の蔓延により、絵本の読み聞かせを実施できなかった。しかし、再開に向けて勉強会を2回開催し、知識をより深めることができた。子育てスマイル訪問をしているボランティアは、訪問時に積極的に読み聞かせをしてくれている。	○	赤ちゃんに絵本を贈呈することで、家庭でも絵本を開ききっかけとなっている。また、新型コロナ蔓延によりおうち時間が増えた中で保護者と赤ちゃんの触れ合いの時間に寄与することができた。
④効率性		○	乳幼児期は成長が早く、さまざまなことを吸収しやすいため、保護者と赤ちゃんの触れ合い(子どもへの語りかけ)は重要で、場所を選ばず楽しめる絵本は有効である。また、4か月児健診の受診率はほぼ100%で、必要な時期に等しく区民に絵本と読み聞かせについて啓発できるため効率的である。		
⑤自立発展性		総合評価			
△	市民ボランティアが協働して図書館や保健センターで読み聞かせを実施しているが、配布する絵本の購入は行政で行う必要がある。	○	ブックスタートがきっかけで図書館に来館される保護者と赤ちゃんもおり、図書館の多数の催しの中でも、乳幼児向けおはなし会への参加者が一番多い。家庭での読み聞かせを通して保護者と赤ちゃんの触れ合いの時間が増え、乳児の言葉の獲得につながっている。		
今後の方向性(課題、改善提案等)					
拡充 継続 見直し 廃止	赤ちゃんに絵本を贈呈するとともに、保護者と赤ちゃんに絵本の読み聞かせを行うことで、保護者に絵本とその読み聞かせの効用と大切さを普及、啓発するという事業本来の目的・効果を考えると、絵本の読み聞かせの安全な開催方法を保健センターや市民ボランティアの意見も参考にしながら再検討する必要があるものの、徹底した感染症対策を講じての安全な開催は難しいのが実情である。読み聞かせの効用や電子図書館など図書館の非来館型サービスに特化した冊子を配布するなどして新型コロナの蔓延に対応できるように改善していきたい。				